

所 報

第58号 2008年3月発行

発行者 沖縄県立総合教育センター

所長 大 嶺 和 男

〒904-2174 沖縄県沖縄市字与儀587番地

電話 098-933-7555 FAX. 098-933-3233

URL <http://www.edu-c.open.ed.jp/>

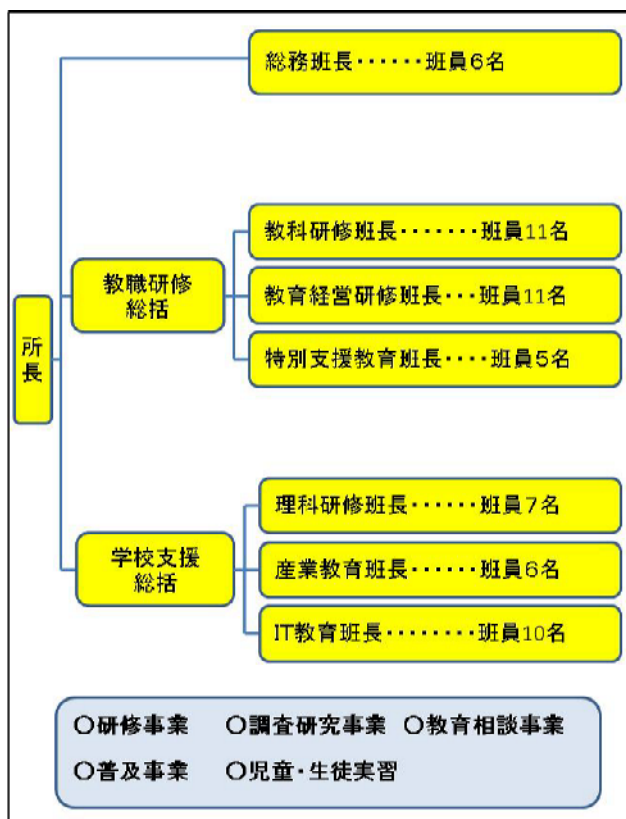
総合教育センターが変わります!

沖縄県は新沖縄県行政システム改革大綱に基づき、「県民本位の成果・効率重視のスマート行政」という基本理念を踏まえて組織のフラット化を進めています。沖縄県教育庁においても、平成19年度から組織のフラット化と班制を導入しました。総合教育センターでも、このような流れや社会経済情勢の変化、県民ニーズの多様化・複雑化等の教育行政を取り巻く環境の変化に的確に対応するため、平成20年4月から、組織のフラット化及び班制を導入することになりました。現行の所長―副所長―7課体制から、右記のような所長―2総括（教職研修総括、学校支援総括）―7班体制になります。

組織の見直しを図ることで、これまで以上に組織としての機能性を高めて、教育行政への対応を迅速かつ的確に行います。また、これまでの事務事業の在り方を見直して、学校や教職員等のニーズにあった実効性のある業務運営に努めたいと考えています。

総合教育センターの人的、物的資源を効率よく活用し、調査研究事業（プロジェクト研究、班内共同研究、個人研究）や研修事業（指定・職務研修、長期研修、短期研修等）、児童・生徒実習（ICTや高度情報機器や先端技術装置を活用した実習）、教育相談（来所、電話、訪問相談）、普及事業（各種研究成果、体験学習教室等）のさらなる充実を図り、学校現場などとの結びつきの強化に努めていきたいと思います。

大きな教育改革の流れの中、学校や県民との連携を密にしながら、学校教育の質の向上を支える専門機関として魅力ある総合教育センターを目指し、本県教育の充実・発展に責務を果たしていきます。



***** もくじ *****

- 総合教育センターの組織変更 - 1 -
- 「平成19年度後期・長期研修成果報告会」「平成20年度学校組織マネジメント研修開設」 - 2 -
- 平成19年度調査研究事業 ―プロジェクト研究・課内共同研究― - 3 -
- 「美ら島e-net（遠隔学習）システム」「平成19年度教材開発一覧」 - 4 -
- 「カリキュラム支援センター更新」「県内適応指導教室の現状」 - 5 -
- 「特別支援教育の推進に向けて」「発達障害の理解について」 - 6 -
- 「平成19年度移動教育センター共同研究成果報告会」「小学校英語活動」 - 7 -
- 研修を振り返って - 8 -

平成 19 年度後期・1 年長期研修成果報告会



期 日 平成 20 年 3 月 12 日(水)～14 日(金)
会 場 本館講義室・IT 教育棟大講義室・
産業教育棟情報応用室
発表者 後期研修員 40 人,
1 年長期研修員 29 人 計 69 人の発表

平成 19 年度後期・1 年長期研修員成果報告会が上記のように開催されました。発表内容は、今日的教育課題や学校の課題解決等を見据えた理論研究に基づく指導方法の工夫・改善や教材等の開発等でした。



写真 「研究テーマ報告」



学校組織マネジメント研修開設へ！ ～特色ある学校づくりをめざして～

教育を取り巻く環境は大きく変化し、生徒や保護者の価値観は多様化している。そのため、学校組織も変化が求められており、組織の円滑な運営のため、基本的な組織の在り方を習得することは重要である。

そのような状況に鑑み、当総合教育センターでは平成 20 年度より長期研修と短期研修講座において学校組織マネジメント研修を開設する。研修内容は、学年・学級経営における職員相互及び生徒理解に関連させることで、学校現場のニーズに一層応えることとなっている。また、学校組織は専門性が高いため、民間企業の組織マネジメントの手法や大学等の研究機関における研修内容を有機的に活用すること

どの会場でも活発な質疑が行われ、各研究発表が興味深いものであったことを示していると思われます。

長期研修員の先生方は、4 月及び 10 月以来、研修計画検討会・中間検討会・研修成果報告書検討会において、何度も自らの内容を見直し、研究を深め、検証授業を通して更に改善を加え、最終的なまとめを行いました。

その成果を、報告会において発表するだけでなく、県立総合教育センターHP「情報共有システム」に掲載してあります。

是非、参考にしていただきたいと思います。



写真 「質疑を受ける」

で、その研修効果を高める必要がある。研修では、学校組織マネジメントについての講義を通して基本的な内容を理解し、その手法を学校への導入等を演習や事例研究を通して習得することとしている。

主な講義内容として、「学校マネジメントの着眼点」「SWOT 分析による学校の特色づくり」「組織開発手法による学校の活性化」「学校マネジメントの実現に向けて」等を計画している。

なお、基礎的内容は、県外大学に委託し、実践事例は本県民間企業、実践研究は本県大学や学校現場から講師を招聘する予定である。

平成19年度 沖縄県立総合教育センター研究発表会

平成19年度調査研究事業、沖縄県立総合教育センター（以下「総合教育センター」という。）研究発表会が、2月13日（水）多目的研修棟等で全体発表会（一部）、課内共同研究及び個人・協力員共同研究（二部）の構成で行われ、多数の教育関係者の参加の下、開催することができました。

当総合教育センター研究（指導）主事が、本県教育の今日的課題に取り組み、学校教育の充実と課題解決に資するため、プロジェクト研究（所内共同研究）、課内共同研究、個人・協力員共同研究、宮古・八重山地区での移動教育センター共同研究の四本柱で取り組んできました。以下、プロジェクト研究の発表概要と課内共同研究の各テーマを紹介します。



所長あいさつ

－プロジェクト研究－

〈研究テーマ〉

「沖縄県キャリア教育推進事例研究」

～小・中・高・特支での実践事例集を通して～

発表者：吉川陽子・宮城康人（教科研修課）

今年度プロジェクト研究の発表は、吉川陽子主事によるキャリア教育の理論編・実践編の45分の説明の後に、宮城康人主事より15分のリーフレットの紹介がありました。

理論編は、「キャリア教育を理解するために」と「学校全体でキャリア教育を実践するために」という発表内容でした。特にキャリア教育実践において、学校全体で組織的に取り組むための重要な理論だと考える「全体構想図、学習プログラムの枠組み、キャリア教育学習プログラムの作成方法」について発表しました。また、実践編においては、小・中・高・特別支援学校の実践事例を紹介しました。

さらにリーフレットは、学校全体で取り組むためのキャリア教育における大切な理論編を、分かりやすく理解できるよう構成しました。

参加者からは多くの質問が寄せられ、キャリア教育の学校現場における関心の高さが伺える内容でした。

本県の教職員がキャリア教育に積極的に取り組み、本冊子、リーフレットを授業実践にぜひ活用していただきたいと思います。

－課内共同研究－

総合教育センター各課では、課内共同研究として、課の特性に合わせ、教育現場支援に資する研究を進めてきました。各課の課内共同研究のテーマは、下記のとおりです。

なお、詳細については、総合教育センターの情報共有システムをご覧ください。

〈研究テーマ〉

○教科研修課

「学習意欲を高める指導の工夫」

－教科の実践的指導を通して－

○教育経営研修課

「教師への活動支援に関する研究Ⅱ」

－教育活動に関するアンケート調査を通して－

○特別支援教育課

「幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導方法の工夫・改善について」

－学校支援のための特別支援教育実践事例集の作成をととして－

○産業教育課

「学ぶ意欲を育てる指導法の工夫・改善」

－指導と評価の一体化を目指した評価方法－

○IT教育課

「学習指導を支援するICT活用に関する研究」

プロジェクト研究、課内共同研究（5本）、個人研究・協力員共同研究（18本）の研究内容は、県立総合教育センター教育情報共有システム<http://www2.open.ed.jp>で公開しています。

美ら島e-net(遠隔学習)システム

美ら島 e-net(遠隔学習)システムは、平成 18 年度 I T 教育センターに構築した「学習管理システム」、電子メール・掲示板・テレビ会議の機能を有する「コミュニケーションシステム」、多くの教材等が蓄積された「教育情報共有システム(既存システム)」の 3 つのシステムを統合した新しいシステムにより、離島・へき地地区の児童生徒の学習を支援するものです。平成 19 年度においては、検証協力校 9 校(与那国町立与那国小学校、宮古島市立宮島小学校、嘉手納町立嘉手納小学校、竹富町立船浦中学校、宮古島市立城辺中学校、北中城村立北中城中学校、八重山商工高等学校、翔南高等学校、西原高等学校)によるシステムの検証を進めてきました。平成 20 年度は、離島地区の学校を中心に美ら島 e-net(遠隔学習)システムの活用を進めていく学校を募集し、学校 ID・ユーザ ID・パスワードを発行してシステムの本格運用を進めていきます。

○学習管理システムの概要

学習管理システムは、児童生徒がインターネットを用いて I T 教育センターのシステムにアクセスすることで活用することができます。約 1,000 本の学習教材が備えられており、「ぶんどき達人への道」(小学校 4 年算数)や「パソコン操作スキル検定」(高等学校 教科「情報」)のような教材があります。教師は学級単位や学習者個別に学習の進捗状況や理解状況、学習履歴等をリアルタイムに把握しながら指導を行うことができます。

学習管理システムには、3 つの学習形態「みんなでスタディ」、「つづきをスタディ」、「ひとりでスタ

ディ」があり、児童生徒の状況に応じて学習形態を選択して学習を進めていくことができます。

○コミュニケーションシステムの概要

コミュニケーションシステムは、メール、掲示板、TV 会議等の各機能を統合して児童生徒の学習を離れた場所から支援するもので特に、離島・へき地における児童生徒のコミュニケーション能力の育成の機会を提供することが可能となります。児童生徒が利用するメールは担当する教員にのみ送信ができ、授業時間にできなかった質問や授業の感想・反省を送信することができます。また、掲示板に授業でわかった事、わからなかった事を書き込んでいくことにより、一人一人の考えをクラスで共有し、学習内容の理解を深めていくことができます。

美ら島 e-net トップ画面



◇教材開発一覧◇

I T 教育課では、児童生徒の学力向上のための学習教材と校務支援のためのシステムの開発を行いました。本年度作成された主な教材及びシステムには、以下のものがあります。

- 「小学校学習活動支援ソフト『ゆい』」
- 「ぶんどき達人への道」(小学校)
- 「中学3年『関数 $y=ax^2$ 』」
- 「座標空間上の点や平面」(高等学校)
- 「パソコン操作スキル検定」(高等学校)

- 「Windowsムービーメーカーを用いた動画編集」テキスト
- 「スライド作成のポイント」(以上、全校種)
- 「あいさつ支援ツール『あいさつ君』」(特別支援)
- 「Access版『生徒検索システム』」(高等学校)

カリキュラム支援センター更新

総合教育センターでは、平成 15 年 4 月に「学校教育なんでも支援室(カリキュラムセンター)」を設置し、学校や教職員等を支援してきました。教育の情報化が著しく進展する中、これまでのカリキュラムセンター機能の一層の充実を図る観点から、総合教育センターのホームページ上で「カリキュラム支援センター」に更新いたしました。

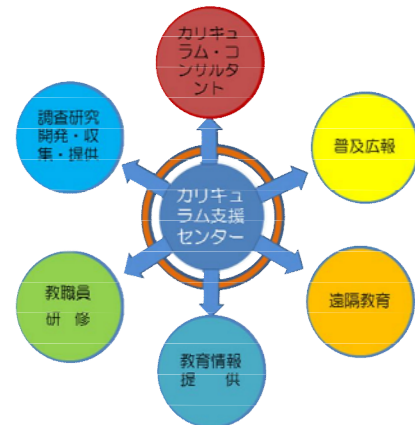
総合教育センターにおけるカリキュラム支援センターは、これまでと同様に、県内学校の教育課程の編成や指導計画、指導方法、学習指導案づくり及び評価方法などの相談・支援、教材・教具の開発・収集及び提供を通して、学校や教職員等に対し、特色ある学校づくりや授業力向上等の支援をします。

カリキュラム支援センターには、「カリキュラム・コンサルタント」、「調査研究・開発・収集・提供」、「教職員研修」、「教育情報提供」、「遠隔教育」、「普及・広報」の 6 つの機能があります。

本県は離島・へき地の小規模校が多いため、ICT を活用した共同学習 e ラーニング及び教職員研修資料等の提供など「美ら島 e-net」等の遠隔教育機能を充実させていきます。

また、様々な教育改革に対応して、学校等では最新の教育情報を収集し、的確な判断と対応が求められています。総合教育センターのカリキュラム支援センターは、教育に関する最新の情報を発信するため、調査研究・開発された実践的な資料を、県内学校・教職員等へ積極的に Web 上で公開・提供し、県民の期待と信頼に応える一層充実した教育活動への支援を進めていきます。

現在、総合教育センターのホームページ上で、カリキュラム支援センターでは、センター刊行論文や研究報告書等を公開・提供しています。(6 つの機能の詳細につきましては、総合教育センターのホームページをご覧ください)



カリキュラム支援センター機能図

県内適応指導教室の現状

文部科学省の学校基本調査（2007 年）によると、平成 18 年度全国の不登校児童生徒数は前年度より 4 千名以上も多い全国 126,894 名となり 5 年ぶりに増加し、平成 3 年度の調査開始以来過去最高となっています。沖縄県においては、1,625 名(前年比 3.9% 増)で平成 17 年度から増加傾向にあります。

県内不登校の内訳は「あそび・非行」「無気力」「不安などの情緒混乱」の順で多く、全国と比較して「あそび・非行」型の割合が高いのが特徴です。これらの不登校生徒のための「適応指導教室」を設置し、「心の居場所」を確保すると共に、様々な体験活動を通して、自分の良さを発見し、学校復帰できるよう就学支援をしています。県内でも当総合教育センター内の沖縄県適応指導教室「てるしの」をはじめ、12 市町村に設置されています。

また、当総合教育センターを事務局として「沖縄県適応指導教室連絡協議会」が組織されています。

昨年度は 2 回の適応指導教室担当者研修会、生徒の普段の活動を紹介する「活動展示報告会（ミニ文化祭）」、本島と宮古地区での講演会などを実施しました。「活動展示報告会」で「てるしの」通級生徒が、前向きになった自分自身を綴った詩に原籍校担任が曲を付け、舞台上で歌い感動をよんだ記事が、沖縄タイムスにも掲載され(H19. 11. 20)生徒の大きな自信へと繋がる成果がありました。

平成 20 年度の全国適応指導教室連絡協議会 四国・九州地域会議は、沖縄大会として、平成 20 年 10 月 23 日（木）、24 日（金）に当教育センターにおいて開催されます。内容は基調講演、実践発表、ワークショップ等を予定しています。各適応指導教室の活動内容の展示も同時に行い、県外の適応指導教室担当者の方々にも本県適応指導教室の紹介をする予定となっております。多くの方々の御参加をお待ちしております。

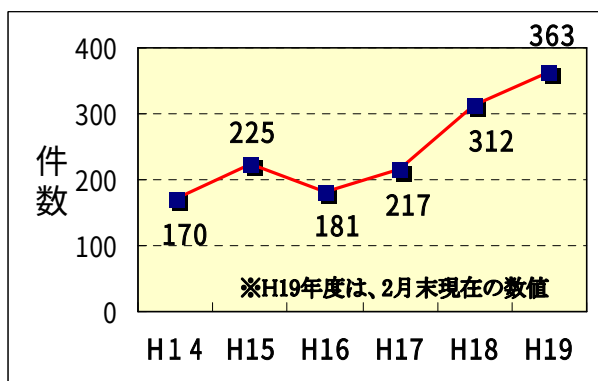
特別支援教育の推進に向けて 特別支援教育課

◇ 来所教育相談について ◇

平成 19 年度は、特別支援教育が法的に位置づけられた大きな節目の年となりました。本県の各学校でも、その推進に向けた取り組みが求められ、本課も特別支援教育の専門機関として、各学校、教職員及び保護者への支援に努めてまいりました。

以下に、本課による保護者等の支援の一つである来所教育相談の、今年度の状況を報告します。

■来所教育相談件数の推移

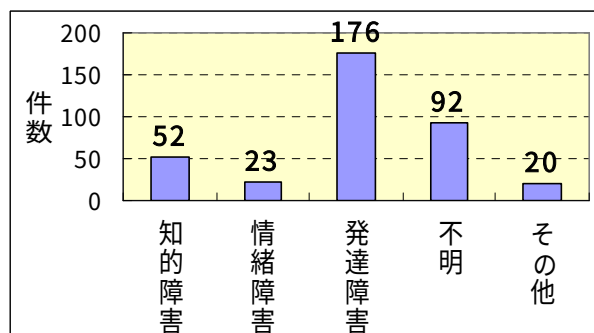


平成 15～16 年度の特別支援教育推進体制モデル

ル事業以降、推進に向けた事業が展開されていく中、相談件数は、顕著な伸びを示しています。

諸事業を通して、特別支援教育に対する理解・啓発が広まってきていることがうかがえます。

■障害種別相談件数（平成 20 年 2 月末現在）



上記のグラフは、今年度の相談の障害種別内訳を示したものであり、“発達障害”に関する相談が全体の約 5 割を占めています。また、“不明”のほとんどが、内容的に発達障害が疑われるものの、正式な診断がないものであり、それを含めると、“発達障害”に関する相談件数は、全体の 3／4 に及んでいます。

◇ 発達障害の理解について ◇

今後の特別支援教育への取り組みにおける課題の一つに、幼稚園、高等学校での推進が挙げられます。特に、発達障害のある子どもたちへの支援は、喫緊の課題であり、早期教育、職業自立への取り組みなど、校種の特性を生かした取り組みが期待されます。

支援の始まりは、ニーズのある子どもへの気づきと理解です。全校種において、以下に示す発達障害の特性を踏まえ、温かい支援の手が差し伸べられることが望まれます。

■学習障害（LD）

学習障害とは、基本的には全般的な知的発達に遅れはありませんが、聞く、話す、読む、書く、計算する又は推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示す様々な状態をいいます。そのため、学習への影響が見られ、「どんなに丁寧に教えても理解できない。」等の困り感となって問題が表出します。

■注意欠陥／多動性障害（ADHD）

ADHD とは、年齢あるいは発達に不釣り合いな注意力の欠如、衝動性、多動性を特徴とする行動

の障害で、社会的な活動や学業の機能に支障をきたすものをいいます。集団の規律を乱す、他者への攻撃等、周囲を巻き込んだトラブルへ発展しやすく、本課への相談例でも、子どもの困り感だけでなく、支援方法の模索が保護者の大きな負担となっているケースも見られます。

■高機能自閉症

①他人との社会的関係の形成の困難さ、②言葉の発達の遅れ、③興味や関心が狭く特定のものにこだわることを特徴とする行動の障害である自閉症のうち、知的発達の遅れを伴わないものをいいます。さらに、高機能自閉症の中でも、②言葉の発達の遅れのないものをアスペルガー症候群といいます。

いずれの障害も、中枢神経系の機能不全が原因であると考えられていますが、本人は悪気がなかったり、苦しんだりしているにも関わらず、“わがまま”、“努力不足”と捉えられ、不登校、非行等の深刻な二次障害に陥る例も報告されています。子どもたちの明るい未来のために、正しい障害理解による適切な支援が望まれます。

平成19年度移動教育センター 共同研究成果報告会 ～宮古・八重山～

平成19年度移動教育センター共同研究事業（宮古・八重山地区）の研究成果報告会が1月24日（木）は宮古地区、25日（金）は八重山地区でそれぞれ開催され、両地区とも20名以上の参加者がありました。

1 宮古地区へき地教育研究部会

(1) 共同研究員

- 宮古島市立宮島小学校教諭 友利 真子
- 宮古島市立宮島小学校教諭 鶴町 利之
- 宮古島市立池間小学校教諭 宮良 弥生

(2) 研究テーマ

自ら学ぶ力を育てる算数科複式学年別指導の工夫
～「学びのステップ」の定着と自己評価表の工夫を通して～

(3) 検証授業

共同研究会では、指導実践の具体策として学習過程に見通しを持たせることをねらった学びのステップ（みやじま）」とその学習過程と連動したノート活用の工夫（自己評価表としても活用）に取り組んだ。



複式5・6年の検証授業

2 八重山地区へき地教育研究部会

(1) 共同研究員

- 石垣市立八島小学校教諭 宮良 弥生
- 石垣市立宮良小学校教諭 仲本 英男

(2) 研究テーマ

「話す力・聞く力」を育てる国語科学習指導
～話し方・聞き方ワークシートの活用と学習形態の工夫を通して～

(3) 検証授業

八重山地区共同研究では、小学校低学年に焦点をあて、国語の授業において「話す力・聞く力」の育成を図る研究を推進してきた。



平成20年度には 毎時間のチェックカード
第54回九州地区へき地教育研究大会（八重山大会）が開催される。今年度の研究実践が八重山大会の成功に繋がることを期待したい。

小学校英語活動研修

ー小学校英語活動必修化へ向けてー

平成8年度に長期研修として始まった小学校英語研修員の受け入れは、平成16年度は年間4名、平成17年度、18年度は12名ずつ受け入れ、指導力、英語運用能力向上に向けた実技研修を実施してきました。そして、平成19年度からは上記の実技研修に加えて、理論及び実践力の向上等必修化に対応した研修となっています。

平成8年度から平成19年度まで44名が小学校英語活動研修を修了しています。

現在、後期4名の研修員が以下の4つの目的で研修しています。

- ①英語活動及び英語パーシャルイマージョン教育の実践できる教員
- ②英語活動とICTを活用した指導力のある教員
- ③各地区でのリーダー的人材となる教員
- ④各学校教員へ伝達研修等で指導できる教員

主な研修内容として、研修員の所属する学校で研究授業を実施し、児童に有効な授業のあり方を研究しています。小学校英語活動に関する実践的研究事例は少なく、本総合教育センターでの研究は大変貴重な研究事例となっております。次に、教科や領域における英語での授業の実

施、さらに、各学校で役立つIT等のコンテンツを作成し、インターネット上で配信しています。

平成18年10月から配信している「小学校英語活動応援サイト」では、各学校ですぐに活用できる実用的な資料がダウンロードできます。

平成18年度と19年度の報告書、教材へのアクセス件数はサイトを開設して以来、1年余で約3,000件と高いニーズがあります。

本総合教育センターで研修を修了した研修員は県内6教育事務所管内で、国際理解教育に関する研究校や小学校英語活動拠点校でのリーダーとして、本センターで培った英語力や英語教育理論等を授業実践を通して県内各地区の小学校における英語教育に貢献しています。





研 修 を 終 え て

当総合教育センターで前期・後期・離島長研・1年研修員総勢100名の先生方が各々の分野において研究活動に取り組んでくださいました。各課の研修員を代表して研修活動を振り返っていただきました。

教科研修課 英語イマージョン教育

県立美里高等学校教諭 顧 容子



沖縄のイマージョン教育について知りたいという動機で研修を始め、その研修も終わろうとしています。この研修での一番の収穫は、沖縄の教育について真剣に考え、そのために自分磨きをしたいと集まってきた仲間達と学校の事、生徒達の事、互いの教育観、夢について語り合えた事です。Through this project, we learnt sincerity, modesty, tenderness, and enthusiasm. We will appreciate these things and use them for our students' happiness!

特別支援教育課 肢体不自由・病弱研究室

県立那覇養護学校教諭 武富 美由紀



色鮮やかな花々と緑豊かな環境の下で、6か月の研修に取り組んでできました。充実した研修を通し、特別な支援を要する子ども達の、課題解決に資する多くの成果を得ることができました。これも、課長をはじめ主事の先生方の温かい心配りと的確なアドバイスのお陰と感謝しています。また、明るくて、優しさに溢れた仲間達と学び合えたことは大きな財産です。今後は、研修を継続し、職員と共に子ども達の笑顔へと繋げていきたいと思っています。

教育経営研修課 道徳研究室

沖縄市立中の町小学校教諭 桑江 和子



私は、道徳を実践していく中での理論や技法を深め習得したいという思いで長期研修に応募しました。研修では、主事の先生方の温かなサポートや研修員同士の支え合いにより、有意義な日々を過ごすことができました。これら魅力ある方々との出会いから「広い視野を持ち、出来ることからコツコツ努力することの大切さ」を学びました。今後は、学んだ事が学校現場に活かせるよう自己研鑽に励んでいきたいと思っています。有難うございました。

産業教育課 通信制御研究室

県立宮古工業高等学校教諭 儀間 常之



総合教育センターで1年に渡り研修できたことは、自己研鑽を積む上で最良の環境でした。毎朝の清掃活動や毎月一度のフラワーフライデー等で所長をはじめ所員、研修員の皆の協働により環境を維持し続けていることは、活動に参加できた一人として誇りに思います。また、産業教育課には、各専門高校の教員が研修に参加しており、領域を超えての人的交流、知識・技術等の情報の交換など、視野を広げることができました。個別の研究では、試行錯誤を繰り返しながら研究の成果を形にすることができました。この経験は、自信へと変わりつつあります。研修で得た多くのことを、学校現場で活かしながら、更なる研鑽に努めていく決意をして生徒たちの元へ戻りたいと思います。

理科研修課 化学研究室

うるま市立平安座小学校教諭 兼城 勲



私が、長期研修に応募したのは、教職9年目を迎え、教員としての資質の向上を図りたいと考えたからです。半年間の研修では、主事の方々の指導のもと、理科研修課の実験、観察や野外実習など様々な講座を受講することができ、充実した日々を送ることができました。また、苦楽をともにした仲間との出会いや過ごした時間は私の貴重な財産となりました。この研修で培ったものを今後の教育実践に生かしていきたいと思っています。

IT教育課 コンテンツ開発

沖縄市立越來中学校教諭 新垣 盛隆



1年間の貴重な研修を終えるにあたり、研修に協力してくれた多くの協力校の先生方や児童・生徒の皆さんに心よりお礼を申し上げます。また、厳しく丁寧に指導して下さった主事や励まし合いながら頑張ってきた研修員の仲間たちに感謝の気持ちでいっぱいです。この1年の間に、自分の研究はもちろんのこと、多くのことを学ばせてもらいました。センターでの貴重な経験を生かし、今後の教育実践に取り組んでいきたいと思っています。